

自己評価報告書

平成23年 5月 2日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242012

研究課題名（和文） 画像解析とフィールドワークに基づく荘園絵図情報システムの構築

研究課題名（英文） A Developing Study for Japanese-Estate-Maps' Information System(JEMIS) based-on their analysis and field surveys

研究代表者

高橋 敏子 (TAKAHASHI TOSHIKO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80151520

研究分野：日本中世史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：荘園絵図、トレース図、積文図、荘園絵図模本、薩摩国日置北郷中分絵図、

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、次の2点である。

(1) 荘園絵図研究の現在の水準においては欠かすことのできない絵図の原本調査・荘園の現地調査を実施して情報の集約・分析を行い、その成果を整備・公開する。

(2) 近年のコンピュータシステムの進展も考慮し、重要な要素である画像や関連情報など、研究成果の有効な公開システム構築方法についても研究を行なう。

2. 研究の進捗状況

(1) 本研究課題における方法のひとつは、荘園絵図の原本調査・現地調査・関連史料の収集を実施し、その成果を集約したトレース図と積文を作成することにある。この科研期間においては68点のトレース図を作成してきた。従来のトレース図は、絵図情報を単純に線描化したものであるが、本科研によるそれは、日本画家との共同作業により、タッチなども考慮したより詳細な観察に基づくものとなっており、絵図が描かれた場を復元する手法でもある。調査とトレース図による総合的な成果については、2011年度より中世の荘園絵図について書籍出版の形態で公開することを予定しており、現在その第1冊目の編纂が進行中である。

(2) 現地調査については、対象地域を限定して重点的に取り組んできた。①薩摩国日置北郷 ②伯耆国東郷荘 ③越後国奥山荘である。このうち①については、現地の景観と近世の地誌情報とから、従来の絵図解釈を補訂する見解を見出し、大きな成果をあげている。また②③についても、未調査の中世文書や近世絵図の調査を実施することができ、分析が進行中である。

(3) 本研究では、画像を主とした情報の公開システム構築方法も検討している。本研究グループでは、先行する科研において、「史料編纂所蔵荘園絵図模本データベース」や「荘園絵図総合情報閲覧システム」を開発してきたが、前者については、2009年度に画面表示を改良し、空撮データを新たに搭載している。

(4) 2010年度、本研究が基盤としている東京大学史料編纂所の歴史情報処理システム SHIPS との連携のしかたを見直し、(3)のデータベースやシステムの基礎部分を構成する地名データ生成システムの開発を先行させることにした。地理情報に関わるデータベース全般に応用展開できるシステムの構築は、今後の研究支援に有効であると判断したためであるが、これについても2011年度半ばには試行運用できる見通しである。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

目的(1)については、現地調査に重点的に取り組んだ地域において、従来の説を書きかえる成果をあげたこと、またトレース図・積文の作成も予定通り進行しており、全体的な調査とそれに基づく成果を刊行物として出版する計画が進行中である。

目的(2)については、当初の、画像や地図表示を中心としたシステムの構築から、今後の研究の基礎となり、より汎用的に展開できる地名情報生成システムの構築を先行させることにしたが、これについても2011年度半ばには運用できる見通しであり、さらに地図上への展開についても試行する予定である。

4. 今後の研究の推進方策
情報システム構築について、あらたな情報学の連携研究者の参加を得た。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ①村井祐樹、崇福寺所蔵「東寺寺内敷地図」、『東京大学史料編纂所研究紀要』、21、83-87頁、2010年、査読無
- ②高山さやか・井上聡、「薩州日置郡吉利郷惣絵図」デジタル撮影報告、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』、50、17-20頁、2010年、査読無
- ③井上聡、「薩摩国日置北郷絵図」現地調査報告概報、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』、48、19-21頁、2010年、査読無
- ④石川徹也・赤石美奈、「歴史知識学」の特集にあたって、『人口知能学会誌』、25(1)、1-4頁、2010年、査読有
- ⑤石川徹也、歴史知識 Ontology 構築研究—その論理と実際—、『情報文化学会誌』、15(1)、6-11頁、2008年、査読有

[学会発表] (計3件)

- ①井上聡・高橋敏子・西田友広、画像史料解析センターのプロジェクト研究—その成果と課題—、シンポジウム「研究と情報の資源化—史料編纂所大型プロジェクトの進捗—」、2010年1月30日、東京大学山上会館
- ②藤原重雄、掛幅本「鞍馬寺縁起絵」模本について、中世掛幅縁起絵研究会シンポジウム「中世説話画研究の現在—模写・トレース・復元—」、2009年12月12日、学習院大学
- ③藤原重雄、飯田市美術博物館所蔵「聖徳太子絵伝」トレース図作成について、講演会と研究報告「中世説話画研究の可能性」、2008年9月15日、飯田市美術博物館

[図書] (計6件)

- ①高橋典幸・西田友広・井上聡 (10人のうち2・3・8番目)『列島の鎌倉時代』、高志書院、2011年、24-49頁・50-69頁・172-201頁
- ②佐野みどり・新川哲雄・藤原重雄編『中世絵画のマトリックス』、青簡舎、2010年、104-142頁
- ③高橋典幸 (8人のうち3番目)『史跡で読む日本の歴史 6 鎌倉の世界』、吉川弘文館、2010年、43-73頁・212-241頁
- ④太良荘史料集成編纂委員会 (須磨千穎・松浦義則・高橋敏子)『若狭国太良荘史料集

成』第二巻、小浜市教育委員会、2009年、340頁

- ⑤横山伊徳・石川徹也編『歴史知識学ことはじめ』、勉誠出版、2009年、1-15頁

[その他]

史料編纂所所蔵荘園絵図模本データベース
<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipsc ontroller>